

中島（小泉）海岸及び津谷川・外尾川の災害復旧事業説明会

平成26年 7月29日（火）

【開催主旨】

- ・ 中島海岸及び津谷川・外尾川の災害復旧計画については、昨年の11月の説明会において皆様方から同意をいただき、今年5月22日には国道45号の兼用提案など、代替案のシミュレーションについても説明させていただき、皆様にご理解をいただいたところ。
- ・ 一方、高水敷の整備、保安林の復旧、干潟の保全などの地元要望事項については、地域の意見を最大限取り入れながら、いいものをつくっていくという観点で、地元振興会や関係機関の代表者で構成される検討ワーキング、そして、学識経験者による検討会の設置について、先般5月22日の説明会にて提案し、ご了解をいただいた。
- ・ 県では、検討ワーキングの準備会を含めて5回、検討会は3回開催し、現地調査も踏まえて要望事項に対する整備方針を取りまとめたところ。
- ・ 本日の全体説明会については、検討ワーキング及び検討会で取りまとめた要望事項に対する整備方針について、検討の経緯も含めて報告させていただくとともに、皆様方からご意見を伺いたい。
- ・ 県としては、整備方針を踏まえ、地域の皆様が一日でも早く安心して安全な暮らしが取り戻せるよう、早期復旧に向けしっかりと取り組んでいく。

【資料説明】

別添のとおり

【質問1】 パースについて、国道は橋になっていたと思うがパースの施設配置が異なるのではないかと。

【回答1】 緑の部分が書き過ぎかもしれない。パースについては完成していないので計画を反映し切れていないところもある。今後見直ししたい。

【質問2】 堤防を見学に来るときの夜間照明については十分検討してほしい。

【回答2】 駐車場については、防犯灯程度の照明は、将来つける予定。

【質問3】 車で砂浜に行ける道はあるのか。

【回答3】 駐車場から直接乗り入れできるように、市と協力して設計に反映させる。

【質問4】 通路に手すりは作るのか。

【回答4】 基本的に3割の勾配なので、手すりの設置については予定していない。

【質問5】 駐車場を作った場合、堤防背面の排水はどうするのか。

【回答5】 津谷川と中島海岸の接合部に1カ所、中島海岸に1カ所、排水樋管を設置。

【質問6】 前回の全体説明会で、ワーキンググループの中に若い世代の代表も入れていただきたいという要望をしたがどのようになったのか。

【回答6】 ワーキングの中でも提案させていただいたが、最終的には地域の代表の方、関係団体の方の構成となった。

【質問7】 ほかの地区では、幾つもの素案をもとに住民の意見を十分に吸い上げながら検討しているようだが、小泉に関してはなぜたった1つのたたき台しか提示されなかったのか。

防潮堤の計画が決まらないと、集団移転の事業が遅れるという話が、どこからどのようにして出てきたのか。

【回答7】 1点目について、前回5月22日に45号の兼用提案も含めて、複数のシミュレーション結果をお示しし、その上で今の計画は妥当であるという説明をさせていただき、皆さんにご理解をいただいた。なお、津波シミュレーション結果については、東北大学の今村先生に事前に見ていただき、気仙沼市長にもこの結果を報告してご理解をいただいている。

2点目の防災集団移転事業は防潮堤ができないと遅れるという話は聞いていない。防潮堤ができないから防集が遅れるということはないと考えている。

(整備方針について)

【質問8】 外尾川の水門についてもう少し説明してほしい。

【回答8】 外尾川については、従前から水門でしたので、維持管理を考えて水門方式で検討しているところ。

【質問9】 整備計画、方針について、説明をいただいたが、去年の説明会の際の方針から大分改善されており、当初要望したことが大分入っておりますので、基本的に方針については賛成する。

資料2の配慮事項について、なるべく早く検討し、実施に移してほしい。

【回答9】 関係機関とも連携を図り、早期整備ができるよう調整していきたい。

(小泉海岸及び津谷川の災害復旧事業を学び合う会の事前質問について)

【事務局】 今回の全体説明会の開催に当たり、先日、小泉海岸及び津谷川の災害復旧事業を学び合う会の方より土木事務所長宛てに質問事項が出されております。もしよろしければ、質問の趣旨について、代表の方からご説明していただき、その後、県から回答をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【学び合う会】 質問用紙を持ってきてないので結構です。

(その他事項)

【質問10】 何で防潮堤をつくるという答えになったのかということ。それプラス、防潮堤をつくることよってのメリットが全くわからないので、そこを教えてください。

【回答10】 皆様ご存じのようにこれだけ大きな被害を受けております。たくさんの方も亡くなられておりますし、家屋も財産も含めて、農地も大きな被害を受けています。そういう中で、県としても皆さんが被災前の生活を取り戻すこと、後世にわたって安心・安全に暮らせるようにということで、被災した地区に対してはしっかりと生命、財産を守っていく。防潮堤でしっかりと津波からまちを守っていくということが県の方針です。

【質問11】 これからの生きていく世代として、防潮堤によって守ってもらいたくないし、守れるというふうにも思えないと思います。

【回答11】 さまざまなご意見はあると思いますけれども、地域の方々も含めて今までいろいろ説明会や各振興会でもご説明をさせていただきました。地域の方々も先ほど言ったとおり、今ではなくて、後世にわたって安心して安全な生活を皆さんに取り戻してほしい。震災前よりももっともったいいまちづくりをしてほしい。そういう中で今まで説明をさせていただきましたし、ご理解もいただいているということで、計画を出させていただいて、取り組みをしておりますので、その辺はご理解いただければと思います。貴重なご意見ということで承っておりますので、ありがとうございます。

【質問12】 この前、NHKスペシャルで代替案とか出ていたと思うんですが、それに対する検討とかというのは少しはあったんでしょうか。

【回答12】 NHKスペシャルで報道された代替案につきましては、県のほうに提出されておられません。前回、5月22日に、代替案5ケースのシミュレーション結果を

お示しをしました。今のL1堤防高の計画だとか、原型復旧、それから、堤防の高さと位置を若干変化させていった3パターン。それから、国道45号の堤防兼用提案というもの、5ケースを説明しました。いずれのケースも上流側の津谷地区に影響が大きい結果になります。さらに、小泉地区についても、検討ケースによっては、春圃苑が浸水したり、逆にそういう被害が大きくなる結果が得られていますので、現行案で進めさせていただきたいと回答してございます。

【質問13】 ワーキンググループについて、非公開で開催されていたと思うんですけども、これからも一般傍聴はできないのか。

【回答13】 検討ワーキングは、開催に当たってそのようなお話もございましたが、皆さんでいろいろ自由な意見で討議したいということで、参加される地元の方からは非公開での意見が多く、非公開ということになってございます。

なお、検討会につきましては、検討ワーキングの意見を踏まえて、開催していますので、オープンで開催しています。今後も、施工段階やいろいろ調査、モニタリングが必要になった場合、場面、場面では、また学識の方々の意見を聞きながら対応することもありますので、そういった場合についてはもちろん公開でもってやらせていただきたいと考えています。

【質問14】 230億円ぐらいの費用がかかる防潮堤ということで、私が把握している中では、現在、防潮堤というものに対して、費用に対して、効果というものを国交省の方、あるいは宮城県の方に提出を依頼させていただいているという立場ですが、半年たちまして、今のところ費用に対しての効果というものが、説明がまだ十分になされていないというのが現状でございます。

その中で、防潮堤の莫大な予算を使つての、守るものというものが、そもそも論になってしまいますが、そちらのほうの命を守るというのであれば、その住民がどこにいらっしゃるのかということも含めて、ご説明いただければと思います。

【回答14】 この件については、NHKの報道でももちろんありました。東京大学において費用対効果を試算しているということは、県のほうも承知しております。一方、国会でももちろん、おっしゃるとおり、取り上げ、議論されているところでございますが、今年6月27日の安倍内閣のときに安倍総理大臣のほうから、中島海岸を含む東日本大震災の被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の428地区

の海岸における海岸堤防の災害復旧事業の政策に当たりましては、海岸事業の費用便益分析指針に基づく費用便益分析を行っていないというふうにご答弁されてございます。この答弁のとおり、県では、全ての災害事業につきまして、費用対効果の算出は実施してございません。しかしながら、大規模な災害復旧事業の費用対効果の算出については、例えばL2の津波の取り扱いに関する評価方法というものは確立されてございません。ですから、今後このような大規模な津波災害に対しては、全国的な統一基準をつくっていく必要があるのではないかというふうに考えてございます。

なお、事業規模につきましては、やはり被災規模の大きさを示すものではないかと思っております。小泉地区をはじめ、津谷の市街地まで、また45号、JRまで大きな被害を受けてございます。やはりこれだけ大きな被害を受けたということで、それに見合った災害復旧事業は必要ではないかというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。

【質問15】 私たちが住んでいる地区は、中島海岸に面して、それで、現在も海の近くに、数軒暮らしている人がいます。その方々、一日も早く堤防をつくっていただきたいと願っております。いまだに数名の方も行方不明のままです。私が住んでいる地区も数名亡くなっている方もいます。先ほどより県からすばらしいこの整備計画（案）が出されております。それに基づいて、一日も早く着工していただいて、早期完成をお願いするものであります。

【回答15】 ありがとうございます。非常に重いご意見と受け止めています。しっかりと対応させていただきます。

【質問16】 海水浴場設置について、これは駐車場の件も含めて、気仙沼市で検討との話がありましたが、配慮事項について検討事案があるということでもあります。そこで、今回のこの防潮堤事業、莫大な費用がかかる案としているところです。この辺の検討がいつまで話が固まって、先ほどの着工スケジュールに盛り込んでいくのか。その辺も煮詰めた上で、着工すべきではないかもしれないかなと思うわけでございますが、その辺はどうなんでしょうか。

【回答16】 配慮事項に「検討する」が多いというご意見は先ほどもいただきましたが、例えば学識を入れた検討会ではどういう議論がなされていたというのをご紹介したいと思います。例えばこの駐車場の窪地を少なくして、背後の地形と一体

となった景観形成を検討するという項目なんですけども、駐車場の詳細設計、これは気仙沼市でやりますので、これからの設計になります。この中で、詳細設計の中で、山と一体になるような景観形成に努めるというお話で、委員の方にご了解をいただいております。委員からも、整備方針は整備方針なので、詳細設計まで全て決めてから工事を着工する点は、期限が守れないという話があります。いろいろ議論するのはいいんですけども、完了する最終年を踏まえることなく、要望事項、こういう配慮事項については、設計変更等で柔軟に対応してほしいという意見を学識の委員からいただいているところです。ですから、今日、お話ししているのは整備方針でございまして、この（案）をもとに、この方針をもとに詳細設計に反映させていくということを考えてございます。

【市の回答】 市役所で実施する今回の駐車場と、市道がございましてけれども、これについては今回の検討会を受けまして、8月中にも設計委託をかけて、本年度中に設計をかためて、予定としては来年度の用地の取得というような流れで考えてございます。

【質問17】 防潮堤をつくるに当たって、維持管理費というのが必ずかかってくると思うんですけども、今後、明らかに子供が減少して、果たして維持していけるのか。具体的に試算を出してほしいと思います。今のままの計画では、少しちょっと無謀なんじゃないかなと思うんですね。払っていくのは子供たち。復興の主役は、地権者でもなく、建設会社でもなく、私たちでもなく、ここにいない子供たちかと思うんですね。若干、子供の方いらっしゃいますけど、この子供たちにとって、負の財産にならないか、すごく危機感を感じています。その辺はどうお考えですか。

【回答17】 防潮堤の維持管理費でございましてけれども、まず被災前の状態からご説明したいと思います。もともと気仙沼土木事務所で、河川、海岸で、河川については27河川、118キロという延長。それから、42海岸を所管してございました。これだけの数で、年間の維持管理費が約7,000万円で、今まで管理をしてきております。この7,000万円のうち、今までは防潮水門というものがございまして、想定宮城沖地震のために防潮水門の耐震化、遠隔化、そういうものをしてございまして、その維持管理費が約2,000万、7,000万のうち2,000万を使っておりました。あと、残りの5,000万については、堤防の草刈りです。除草費用、それか

ら、異常堆積土の土砂撤去、海岸清掃が主なものでした。津谷川に限って言えば、津谷川は被災前から三面張りの堤防でございます。コンクリート三面張りの堤防で、除草費は全くかかっていない。それから、上流側にいくと、土堤の部分がありますので、草刈り費用はかかっておりました。津谷川でかかっていた主な費用というのは防潮水門です。外尾川の防潮水門、それから、蕨野川の防潮水門の管理費用が主なものになってございます。

高いものをつくって、何十年か後に全部やり直すと大変な費用がかかるというご意見があるんですけども、誤解のないように補足させていただきますと、今回つくる堤防はコアの部分が土でございます。土堤ですから維持管理費としては、基本的に土の部分は費用がかからないわけですね。表面に張るコンクリートブロック、こういうものは波の影響もありますので、当然ながら経年で劣化していきます。ですから、波当たり部については、定期的な維持補修費というのは当然必要になると考えております。

現時点で維持管理費が幾ら必要というのは、算出は非常に困難です。ただし、今までの実績からいって中島海岸の海岸堤防、津谷川の三面張りの堤防で、コンクリートを作り変えて工事したというのは、今までにないと記憶してございます。

(ワーキングメンバー意見)

【意見1】 今日、整備方針を説明いただきました。これで十分だとは思いませんが、これで早く復興に進めていただきたいと思います。3月の大地震の後、私の家も全部流されまして、3カ月、4カ月、地区住民のために仕事もせず、頑張っただけでまいりました。やっとここに来て、この防潮堤の河川堤防が目に見えて実行されると私は常々考えておりました。一刻も早く安全な小泉地区にしてもらいたいと思います。今までいろいろな意見がありました。若い世代からこういう防潮堤は要らないという発言が出るとは、私は思ってもいませんでした。こういうこともありますので、私たちは早くこの小泉地区が安全で暮らせることができるように、早く防潮堤を整備していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【意見2】 一生懸命、自分なりにワーキングの中で、いいものをできるだけ早くつくれるように頑張っただけでまいりましたが、これからも小泉地区にマッチした防潮堤が

できるように皆さんのご意見を反映するように頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

- 【意見3】 皆さんのご意見と同じです。防潮堤を早くお願いします。
- 【意見4】 検討委員会等のメンバーとしまして、皆様のご協力のもとに県の方もみえてですけども、今回指定された（案）は皆さんと話はいろいろありますけれども、検討結果としては最善のもので、より安全なものではなかろうかなと、そういうふうに思っております。ですから、先ほどどなたかも言っていましたけれども、仮設にいる皆さんの集団移転も進んでいますし、防潮堤もできて、津谷のまち、そして、小泉全体を人と財産を守る安全のためにも、1日も早い完成をお願いしたいと思います。
- 【意見5】 ワーキンググループに参加させていただきまして、いろいろ私も勉強になりました。小泉の住民のみんなが安心して暮らせるように、防潮堤、速やかな完成を願っております。
- 【意見6】 消防団で35年やりました。この中では、洪水、そしてまた、台風による大風、いろいろありました。これはその場で立ち会った者でなければわからないものだと思います。どうか、消防団員を今回の震災では2名も尊い人命を失いました。ですから、もうこれ以上、震災はいつ来るかわかりませんから、早くこの防潮堤、そして、堤防などをつくってもらって安心して住める小泉をつくってほしいと思います。観光客も大勢来ますから、この点はよろしくをお願いします。
- 【意見7】 長くなればなるほど、皆さんもやっぱり迷いも生じると思いますから、できるだけ早く進めてもらいたいと思います。お願いします。
- 【意見8】 防潮堤、津波で流されなければ何も問題なかったんだけどね。それに加え、農地も流されました。実は、被災した人たちは一日も早く安心して暮らせる環境づくりがあるべきだと思います。それは被災した地元の人たちでなければわからないのかなと毎日思っています。今夜の説明会で、いよいよ工事が実施することを皆さんは期待して、今夜ここに来ていると思いますので、まちづくりのためにも工事着工、よろしくをお願いしたいと思います。
- 【意見9】 2年前の24年の6月に防潮堤の話聞いて、私たちは、当初、国道が防潮堤にならないのかなという意見を出しました。ただ、そのときに県の方から、国道は防潮堤にはできませんからという話を伺って、ああ、これはだめだなと。

そこで時間がかかると、これは、防潮堤については時間がかかるということで、私たち、振興会をやりながら高台移転のほうをやっていましたので、高台移転のほうを集中してやろうということになりました。その結果、先ほどのような話が尾をつけて、防潮堤のことをやっていると高台移転が遅れるという話が大きく膨らんだ結果になったかもしれません。

それから2年、県の方たち、いろんな方々が大変な苦勞をして今日まで話を煮詰めてきました。大変ありがたいことだと思います。別な面から見れば、慎重派と言われる方々も、いろんな方々の意見を出してもらって、それも私たちにとってはすごい勉強にはなったと思います。今後ともこの防潮堤を進めるに当たって、住民と県と行政の方たちと手を取り合って、すばらしいものにしていってほしいと思います。よろしくお願いします。

【意見10】 先ほど来からいろいろご意見ありますけれども、とにかく我々は3年4カ月ぐらい前に、大変な津波が起きて、実際、被害を目の当たりで受けた人間なんです。それで、家を流された方もいっぱい。中には家族を失った方もいっぱいおられます。やっぱりそういう人たちでないとわからない部分が、何かこうして話を聞いていると随分多いようなんですよね。我々はその実際、津波を受けた者として、我々の後世ですね。それから、技術的な解釈なのかわからないんですが、とにかく歴史的に見ても50年、あるいは100年、明治あるいは昭和ですね。大きい津波が来て、そのたびに小泉地区は何百人という人間が亡くなっているんです。だから、さっき若い方がおっしゃったけども、そんな防潮堤なんか要らないんじゃないかみたいな話をしましたけど、我々からいたしますと、全く理解できません。だから、俗に言うL1とおっしゃっていますが、最低でも今回のようなL2の津波はととも防ぐことはできませんから、最低でもL1のような津波を、我々は後世を守るためにこれは絶対に布石になると思うんですよ。実際津波を経験した我々にとってですね。

だから、とにかく、ずっとこの春からですか。各小泉地区の3地区ごとに、各懇談会を開いています。それで、その3地区ともこの懇談会の中で、九分九厘は合意がとれています。九分九厘ですからね。よく聞いてください。だから、そのときも既に我々は県のほう、あるいは国のほうにも要望書を出しております。それで、とにかく我々の考えは微動だにしません。だから、とにかく早く

つくって、我々は安心したいんですよ。だから、とにかくその辺もご理解いただきましてね。いろいろさっき何か費用対効果みたいな話ありました。

【意見11】 今、皆さんがみんな言ってしまったものですから、発言することはありません。あと、この工事の早急な発注をお願いして、完成を目指してください。お願いします。

【意見12】 先ほども発言させていただいたので、結構でございます。

【意見13】 この3.11の津波、本吉町で八十何人ほどが亡くなりました。行方不明になっている方がまだ40人ほどおられます。家屋を相当に被災をした振興会の会員の方々もでございます。このような被災をしたことを防ぐ、これから将来で防ぐというふうな施策を行政のほうをしないでどうする。私の参加した目標はそこでございます。L2ではなくて、L1ですけれども、ぜひとも住民の生活と命を守る防潮堤にさせていただきまして、検討していただきたいと。

【意見14】 本日は多くの方々にこの小泉にご出席を頂戴いただきまして、ほんとうにご苦労さまでございます。私ども小泉川鮭増殖組合、小泉川は、この川は宮城県の鮭の稚魚のほとんどこの小泉川で増殖、放流しているわけでございます。したがって、今回の津波によりましてその孵化場も全滅した状態の中、世界各国から、そしてまた、国内の皆さんからご支援いただきまして、一步一步前進しておるわけでございます。したがって、今後ともこのような災害が二度と起こらないように、起こっても防げるような堤防を一日も早くつくっていただきたいというふうに思っております。

県の皆さん、そしてまた、国の皆さん、先ほど代理の秘書の方、来ておりました要望ですが、とにかく国会で、費用対効果という話を結構されておる方もおるようでございます。国は一体何を守る。我々からすれば、国土を守り、国民を守る。これ以外に国の仕事はないわけでございます。ひとつよろしく申し上げます。

【意見15】 今日、いろんな方々の話を聞けて、非常にいい機会だったなと思いました。多くの方々、小泉以外の方々がこんなに参加してくださっていること、マスコミがこんなに入っていることをほんとうに小泉の中島海岸がいかに注目されているかわかります。小泉の人たちの考えもこれで伝わったなということが感じています。

本事業がほんとうにこれでよかったのかどうかということを第三者機関に検証していただくことが重要なことかなと思います。よろしく願いいたします。

【意見16】 我々当初、小泉も壊滅的な状態になりまして、高台移転を早期に進めてまいりました。今もそのとおりですけれども、その当初からもう住民の皆さんから合意形成がなされ、今、順調に高台移転の造成工事が進められております。そんな中で、その防潮堤の問題が飛び込んできまして、私たち当初会員が、明日を考える会が十五、六人おりましたけれども、個別再建されて脱退していった方々もおりますので、現在は七、八名でいろいろ、毎日いろんなことを考えております。これからも我々の本分は集団移転を早く、造成、完成してもらいまして、そして、早く安心した住宅地に住めるということが目標でございます。

それから、今まで皆さんが言ってきたとおりだと思っておりますので、今後とも防潮堤のほうをよろしく願いいたします。

以上